



まつざき真琴

県議会ニュース

日本共産党

2014年
2月2日号
医療費助成特集

ご意見・ご要望をお寄せください

発行／日本共産党鹿児島県議団
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 TEL/FAX 286-3977
E-mail kengidan@jcp-kagoshima.com HP <http://jcp-kagoshima.com>
★ブログ『まこっちゃんのいっぺこっぺ奮闘記』<http://matsuzakimakoto.synapse-blog.jp/>

3つの医療費を窓口で無料に 合計1万7682人の署名を提出

1月15日、乳幼児や重度心身障害者、ひとり親家庭に対する、医療費助成をめぐる、鹿児島県に病院窓口負担ゼロを求めている「三つの安心をつくる会」は、知事あてに窓口負担をなくして現物給付を求める5806人分の署名を提出しました。「会」は昨年9月に1万1876人分の署名を提出。合計1万7682人分ののぼります。まつざき真琴県議も同席しました。

鹿児島県においては、重度心身障害者医療費、ひとり親家庭医療費、乳幼児医療費におきまして、県単独の助成制度を設けています。しかし、いずれも一旦病院の窓口で全額支払った後、2～3か月後に戻ってくる「償還払い方式」です。

関係団体から要望

鹿児島県身体障害者協会連合会から、医療費助成を現物給付に変えてほしいという陳情が県議会に提出されて全会一致で採択されました。また、母子寡婦福祉研修大会でも、「現物給付」に変えることを求める「決議」が挙げられました。鹿児島県市長会から出された県への要望書でも、乳幼児医療費助成の中学校卒業までを対象にして現物給付を求めています。

鹿児島市議会 現物給付を求める意見を全会一致で採択

鹿児島市議会では、昨年の12月議会で、鹿児島県知事に対し、『乳幼児医療・重度心身障害者医療等の現物給付を求める意見書』を全会一致で採択しました。



進んでいる市町村の子ども医療費助成

県の制度としては、対象は小学校入学前まで、3000円を超えた分だけが後から戻ってくるというしくみになっています。

市町村では、それに上乗せをして、対象を広げたり、自己負担をゼロにするなど、子育て支援を行っています。

しかし、市町村によってバラつきがあり、住んでいるところで大きくに差が出ています（裏面参照）。

県としての制度の充実を図ることが求められています。

※裏面は、県下市町村での乳幼児医療費助成事業の実施状況です

3月議会の一般質問のご案内

まつざき県議は、3月議会でこの問題を取り上げる予定です。

3月3日（月）
概ね11時より

